

「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」
領域開拓プログラム最終評価結果表

課題	C：テクノロジーの革新と日本の美学および感性
研究テーマ名	日本の伝統芸能における技法やコンテンツを先端ロボット産業に活かす UX デザイン研究
研究代表者	中川 志信
所属機関・部局・職	大阪芸術大学・芸術学部・教授
研究成果の総合評点：A	
研究成果に係る所見	
<p>本研究は、能および文楽のメカニズムを解析し、先端ロボットに応用することを目指したもので、日本の伝統芸術の特色を科学的に分析した点で一定の成果をあげた。得られたデータは、今後、先端ロボットへの応用だけではなく、能や文楽の研究にとっても、有効活用されることが期待される。伝統芸能学、民族学、音響工学、情報工学、ロボット工学、デザイン学の各分野の研究者が参画したのも有意義であった。ただし本研究が、最終的に目指すロボットの完成までのどの段階にあるのか、また人文学にとってどのような新しい視野を開くのか、具体的には不明である。研究成果については、より幅広い人たちへ向けて発信されることが望まれる。</p>	

※ 「研究成果の総合評点」に対する標語は下記のとおり。

- S. 研究目的に照らして、期待以上の成果があった
- A. 研究目的に照らして、期待どおりの成果があった
- B. 研究目的に照らして、期待どおりではないが一定の成果があった
- C. 研究目的に照らして、十分な成果があったとは言い難い